


女性限定！運転士職場体験会 開催のための運営ポイント

中部運輸局岐阜運輸支局

協力
岐阜乗合自動車 株式会社
公益社団法人 岐阜県バス協会








目次



はじめに	2
1.開催までの流れ（イメージ）	3
①体験会の企画	4
②関係者との調整	6
③参加者を募集	7
④開催日当日	8
⑤採用につながる取り組みを引き続き実施	8
2.バスの運転体験における注意事項	9
3.その他体験会の実施内容における注意事項等	10
4.様々な配慮やアイデア	12
最後に	13



はじめに

-  近年、運輸産業では運転士を初めとした人手不足が深刻化しており、特に、乗合バスでは減便や路線の撤退、コミュニティバスでは受託事業者の不在などの路線の維持・存続に支障をきたす事態に陥っています。
-  中部運輸局においては昨年、女性運転士活躍のためのセミナーを開催し、女性の就業割合が低い運輸産業（※1）においてその活用促進に取り組んでいます。
-  そのような流れを受け、岐阜運輸支局では平成29年4月に岐阜乗合自動車株式会社、公益社団法人岐阜県バス協会と共催で「女性限定！路線バス運転士職場体験会」を開催しました。
-  「車の運転が好き」「大型の車を運転してみたい」「人と接することが好き」という女性に気軽に参加して頂き、運転士という職業を身近に感じていただき、またその仕事への理解を深めていただくことで、就業促進を促す取り組みです。
-  乗合バスの運転士は、地域の交通を担う公共性の高い仕事であることを鑑み、同様の取り組みが各地域で開催されることを期待して、開催に当たっての運営要領をとりまとめることと致しました。

（※1）全産業における女性比率：43.4%、バス運転士における女性比率1.4%

（厚生労働省「平成28年版働く女性の実情」より）

（交通政策基本計画より）

1.開催までの流れ(イメージ)

①体験会の企画

- ・開催日、場所、実施内容、時間、募集人員などを決める。
- ・実施に当たり、協力を求める関係者（社内、社外含め）を整理。
- ・開催までのスケジュールを確認する。（いつまでに何をするか、など）

②関係者との調整

- ・実施バス会社採用部門、運転士、体験会開催場所、広報のほか、運輸支局、バス協会、沿線市町村、警察署などへの協力要請などが想定される。

③参加者を募集

- ・記者発表など多くの人々の目にとまるよう、取り組んでください。
- ・可能であれば、有料広告も活用ください。

④開催日当日

- ◎参加者に運転士について十分分かっていただけるよう、主催者各自が役割を果たしてください。
- ◎安全や法令遵守に十分に配慮してください。

⑤採用につながる取り組みを引き続き実施

- ・参加者に対し、電話やメール等で採用活動を実施する。
- ・参加者へのアンケートを活用し、次回開催へ活用をする。など

三
〜
四
ヶ
月

一
〜
二
ヶ
月

①体験会の企画

(1) 開催日、開催場所を決める

- バス会社側にとって、繁忙期を避ける。
- 安全面を考慮して、雪の降りやすい時期を避ける。
- 参加者にとって参加しやすい日を選定する。
参加しやすい日の例；
土日祝日、気候が良い時期、お子さんと一緒に参加しやすい日（夏休みなど）など。
- 参加者は大型運転免許を持っていない人が多いため、一般道路と遮断できる場所（バス会社の営業所、練習用コースなど）を選定する。
- 参加者、主催者がそれぞれ車で参加した場合、駐車場の確保ができるかについても考慮する。
(駐車場の確保できない場合、又は参加者の利便を考慮して、最寄り駅から開催場所までバスを手配する手法等もある。)

(2) 実施内容、開催時間、時間配分を決める

- 実施内容は、メインとなるバスの運転体験のほか、業務内容説明会、運転士の1日の紹介、女性運転士との座談会、営業所内の見学、点呼説明及び模擬体験、女性運転士の制服試着体験、写真撮影などが考えられる。
- 開催時間は3時間前後くらいが目安。移動時間、休憩時間にも配慮する。
- バスの運転体験を中心に据え、バス会社側がアピールしたい面も含め、内容と時間配分を決める。
- バスの運転体験は、少なくとも1人当たり10分（座席合わせ、簡単な運転操作説明（まとめて実施することも可能）を含む）は確保できるように、努める。
- バスの運転体験は時間がかかるため、主催者側の人数に余裕があれば、2班体制（バス運転体験班と点呼体験＋営業所見学班など）とすることも効率的。

①体験会の企画

(3) 募集人員を決める

- ・メインとなるバスの運転体験に十分な時間が確保できる人数を設定する。
(参加者〇人以上になったら、2班体制とする、などあらかじめ決めておけるとなお良い。)
- ・一般的に5～8人、2班体制ができれば倍となる10人～16人くらいが目安。
- ・当日、役割分担することを念頭に、主催者側の参加人数から、算出する視点も必要。

(4) 関係者、協力者を整理する

- ・企画者だけで成功に導けるものではない。多くの参加者を募ること、また参加者を採用につなげるためには、関係者間の連携が重要となる。
- ・実施バス会社採用部門、指導運転士、運転士、体験会開催場所、広報部門とは企画段階から連携が必要不可欠。
- ・幅広く参加者を募る観点から、運輸支局、バス協会、沿線市町村などへ協力を要請していくことも手法の一つ。
- ・運転体験会において使用する車両（補助ブレーキがあるもの）を手配する。

(5) スケジュールを確認する

- ・開催日を中心に、いつ頃までに、誰が、誰に、何を、どの段階まで、実施もしくは調整をするか、大まかに決めておく。
- ・関係者間における打ち合わせは、ひと月に1回程度は、現状報告や課題共有のため、必要。
- ・メールや電話等で随時、関係者間において情報共有することが望ましい。
- ・参加者募集期間は長く（1ヶ月以上）とれるようにスケジュールを決めると良い。
- ・広告作成は早めに取りかかると良い。

②関係者との調整

(1) 関係者それぞれの役割

実施バス会社採用部門

体験会を実施する主体となりうる部門。企画の立案、関係者との調整、当日の運営・進行のほか、自社のアピールを実施する。体験会を実施するうえで女性職員が携われると都合が良い。

指導運転士・運転士

バスの運転体験において、参加者への指導と安全確保を実施するほか、体験会において、実際に働く運転士としての声を届ける。女性運転士が参加できるとなお良い。

体験会開催場所

バスの運転体験における走行ルート調整、一般道路との遮断や車両移動等による体験会場作りを実施する。また営業所での実施であれば、説明会場や見学場所を提供するほか、あらかじめ通常業務との連絡・調整についても実施する。

広報部門

参加者募集に当たっての協力、開催日当日の記者対応。

運輸支局、バス協会

バス事業の安定的な発展の観点から、募集に当たっての広報や当日の記者対応などを実施。時には主体にもなり得る。

沿線市町村

バス路線・本数の維持の観点から、募集に当たって周知などを協力。

警察署

バスの運転体験会における走行ルートによっては、事前に情報提供をし、調整等実施していく

③参加者を募集

(1) 記者発表を実施する

- 幅広く参加者を募るためには、記者発表を実施し、新聞記事、ネット記事となることが、一番影響が大きい。
- 記事として取り上げてもらうには、実施内容をわかりやすくまとめるとともに、この取り組みが何故必要なのか、外部関係者との連携姿勢なども含め、記者発表資料にまとめることが望ましい。
- 記者発表は運輸支局や自治体等の行政側からも行うと、一企業としての取り組みでは無くなることもあり、記事として取り上げてもらえる可能性が高くなる。
- 記者発表は通常実施しているであろう「投げ込み」だけではなく、記者にアポイントを取り直接アピールを実施していく手法も有効。女性運転士の格好で訪問する、チラシをベースとしたパネルを作成し持参するなどすると写真入りで記事掲載される可能性が上がる。
- 当日の取材についてもお願いをすること。（写真入りで読者が興味を持つ記事となる可能性が高く、本体験会のさらなる認知度向上や企業アピール等につながるため。）

◎参加者に求める運転免許証の種類を明らかにすること。

(2) 広告を実施する

- 記者発表以外に、広告を実施するとさらに効果が期待できる。

◎費用面から、実施できるものから取り組みができれば良いが、チラシの作成は必須。（記者発表資料やホームページへの掲載、配布など汎用が可能なため）

- 効果が期待できる広告手法としては、チラシの配布（自動車学校、ハローワーク、大学の就職課、沿線自治体の公共施設など）、ホームページへの掲載、バス車内広告、バスラッピング、ネット広告、就職情報誌への広告、新聞広告、ラジオ放送など。

④開催日当日 ⑤採用につながる取り組みを引き続き実施

④開催日当日

- 当日の準備から受付、実施、片付けに至るまでの役割分担表や実施内容ごとのシナリオを1週間ほど前には作成をし、関係者間で共有するとともに、関係者は各自把握をしておく。
 - 役割分担の中で、全体の進行・調整・管理を行うために個別の役割を持たない人を少なくとも1名は配置しておく。
 - 予定外の事態が発生することに備え、対応方法（相談方法含め）をあらかじめ決めておく。
 - 関係者が一堂に会するため、開始前に当日の流れ、対応者、導線などを一通り確認をする最終打ち合わせを実施し、注意事項についても共有をする。
- ◎安全を一番に考え、参加者に楽しく運転士について理解していただくため、各自が役割を果たすことが重要。

⑤採用につながる取り組みを引き続き実施

- 参加者に対しアンケートを実施し、検証し、次の採用活動につなげることが需要。
- アンケートは大きめの文字で1枚（A3用紙1枚、もしくはA4表裏1枚）に収め、質問は10～15項目にまとめ、基本選択式、一部記述式とすると回答を得られやすい。
- アンケートには体験会の感想を求めるほか、バス会社にとって今後の採用活動の参考となる事項も盛り込むと良い。
- またアンケートは氏名記述式とし、各参加者へ今後の採用案内の参考となる事項についても盛り込むと良いが、この場合、個人情報採用案内に利用する旨、アンケートに明記すること。
- 参加者の家庭の事情によっては、現在は就職できなくても、将来的に就職できる状態になる場合もあるため、参加者と長期的に繋がりを持てるようにしていくと良い。

2.バスの運転体験における注意事項

- ◎補助ブレーキの付いたバス車両（教習車など）を手配する。（安全面から必須）
- ◎指導運転士が同乗し、指導できるよう手配をする。（安全面から必須）また、もう1人運転士を同乗させ、補助ブレーキを担当させると指導がスムーズにできる。
- ◎免許の関係で公道外にする必要があるため一般道と交通を遮断するとともに、実施場所においても体験車両と営業所内交通が分離されるよう配慮する。
- ◎保険に入る（車両保険、体験者（国内旅行傷害保険）ともに）
- ◎大型未経験者でもバスが運転できた！と実感できるようなコース設定、時間配分を調整する。ただし、運転者の技量に応じ体験内容を加減する。
- ◎関係者は名札などスタッフだとわかる服装をする。
 - ・始めに女性運転士が体験コースの模範運転を披露する。
 - ・天候の変化や残り時間等によって、運転席周辺機器の操作体験（ドアの開閉、音声案内など）なども併せて実施できるように考えておく。
 - ・お子様やご主人などの同席参加者を想定しておく。



営業所職員への注意案内例



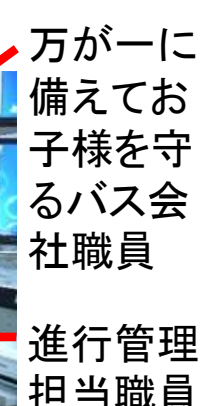
カラーコーンで示されたコース例



車内での事前説明



補助ブレーキ担当運転士



進行管理
担当職員

3.その他体験会の実施内容における注意事項等①

営業所内の見学

- バス運転士として安心して働ける環境を見てもらうため、休憩室、仮眠室、食堂、トイレ等を見学してもらう。
- 女性専用のスペースを設けている場合、優先的に見学をしてもらうのが良い。
- 事前に営業所職員への周知が必要。



見学予定施設をチラシ等で目印

点呼説明及び模擬体験

- 運行管理者より点呼とは何か、点呼の重要性、点呼の流れ、アルコールチェック、免許証チェックなど細かい部分まで説明。
- 実際の運転士の出退勤時の点呼の様子を見たり、参加者にアルコールチェックを体験してもらう。
- バスの安全がどの様に守られているかを示す上でも重要。
- 実業務と並行して体験を行うため、支障が出ないように配慮が必要。



運転士の1日の紹介

- 運転士の出勤から、退勤までの1日の流れを、所属する女性運転士を例に紹介。
- スライドや紙資料で写真を用い、わかりやすく説明する。
- 女性運転士自らが説明をする場合、女性運転士から聞き取って採用担当が説明する場合などがある。



3.その他体験会の実施内容における注意事項等②

業務内容説明会

- ・バス会社の採用要件、待遇、勤務形態、福利厚生、大型二種免許取得に対する補助制度等をスライドや紙資料を用い、簡単に説明する。
- ・女性運転士をなぜ必要としているか、についても併せて説明ができると良い。

女性運転士との座談会

- ・働こうとする前に、実際に働く女性運転士から話を聞けることは貴重な体験となるため、参加者から質問を受け、女性運転士に答えてもらう場を作る。
- ・参加者が質問しないことも想定して、あらかじめ主催者側でいくつか質問を用意しておくことも有効。
- ・女性ならではの質問も想定されることから、女性限定参加にすることも事前に検討しておく。
- ・場を和ませるために紅茶&ケーキを食べながら、という手法もある。



女性運転士の制服試着体験、写真撮影

- ・制服を試着し、写真撮影用バス（運転体験とは別車両を手配した方がよい）にて記念撮影を実施する。
- ・写真撮影は、主催者がお手伝いをする。
- ・試着制服は数や大きさが限られることが多いため、事前に希望者を確認するなどの工夫や着替える場所の確保が求められる。



4.様々な配慮やアイデア

募集に対する応募に際して

- 電話、FAX、ホームページからの応募など、24時間思いついた時にいつでも応募してもらえる体制づくりを可能な範囲で実施できると良い。
- 応募時の記載事項について、個人情報部分については、配慮について明記するとともに何故必要か（例えば、保険契約に生年月日が必要）を記載する。
- 開催日2～3日前に、再度、参加意思確認をする。その際、集合時間・場所、駐車場の案内を再度しっかりとしておく。（間違える人がいるため）

記者対応について

- 体験会に取材が入ることをあらかじめ想定をし、想定問答を作成する。
- 記者にとっては写真撮影が重要であるため、体験者へ取材が入ることを受付時に説明するとともに、写真撮影が可能かどうか確認を取り、写真撮影を了承していることをわかるように名札や腕章で示す等工夫が必要。主催者が写真を撮る際も同様。







アンケートに関して

- アンケートを記名式とする場合、応募時の記載事項と重複するものは避けるとともに、集計の際には一体としてとりまとめ、採用活動や検証作業に役立てること。
- アンケートをしっかりと記載いただくこと、手に取る度に体験会を思い出してもらえる効果を期待して、記念品（ノベルティ）を贈呈することも手法の一つ。

他社等との連携について

- 一社での開催が難しいと考えた場合、周辺のバス会社（乗合・貸切）やタクシー会社と連携しての実施や運輸支局、バス協会、あるいは沿線市町村と協力し、実施することも可能。
- 女性限定とした取り組みでポイントをまとめているが、若年層向け、一般向けなど応用が可能。12

最後に

-  小規模で取り組むなど、まずはできることから、始めてみるのはいかがでしょうか。
-  取り組んでみよう！となった暁には、岐阜運輸支局としてもお手伝いをさせていただきますので、輸送・監査担当（058-279-3714）までご相談ください。
-  バス運転士は地域の公共交通を担う公共性の高い仕事でもあります。コミュニティバスを含め、バスが無くなれば、通勤・通学・通院・買い物等に支障が出るのが予測されますので、住民の足の確保の観点からも、市町村の皆様にも是非、こういった取り組みへのご理解・ご協力をいただければ幸いです。
-  参加者の方の笑顔と安全を第一に、取り組まれる皆様にとっても良い経験となりますことを祈念しております。

平成29年7月
中部運輸局 岐阜運輸支局 輸送・監査担当